

## 【資料紹介】 島原市有明町 一野遺跡出土資料の紹介

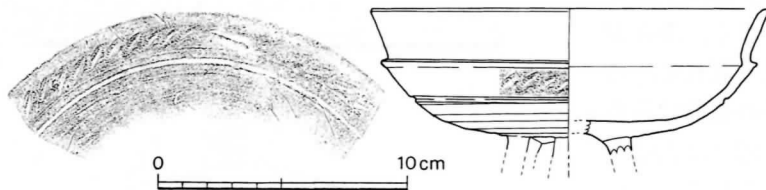
竹 中 哲 朗

### はじめに

本稿では、旧南高来郡有明町立歴史民俗資料館所蔵の一野遺跡採集品である須恵器無蓋高坏1点を紹介する。昭和63年2月23日記入の考古資料収蔵台帳には、採集地の欄に「一野遺跡平野氏」とあり、写真には無蓋高坏の他に長脚の高坏脚部片が写っている。そのころに採集された出土品であろう。一野遺跡は昭和35年の国道改良工事による古田正隆氏の調査報告（註1）を皮切りに、隣接する景華園遺跡（註2）と同様に弥生時代の墳墓として注目されてきた。その後、弥生時代から古墳時代にかけての墳墓群を主体とする遺跡として理解されていたが、近年、縄文時代前期の特徴的な円筒系土器（註3）を出土する遺跡としても注目を集めている。また、竪穴式石室、竪穴系横口式石室や箱式石棺を主体部を持つ4世紀代後半から7世紀代初頭にかけての古墳群（註4）の検出もあり、古墳時代の墳墓群としても注目されている。

### 1. 一野遺跡の無蓋高坏（第1図）

無蓋高坏の坏部片である。口縁部の直径は復元で16.2㍎、坏部の深さは4.4㍎。脚部を失っているが、方形の透かし孔上部は残存している。口縁部の上面観は正円を描かず歪みがみられるが、それ以下には歪みはみられない。口縁部端部は外に開いており、端部は丸みを帯びている。口縁部と体部との境には明瞭な稜線がつくられており、稜線端部は丸みを帯びる。この稜線の下で立ち上がりの角度が変わっており特徴的である。稜線から口縁部までの高さは2.1㍎となる。稜線の下には櫛描波状文が一条あり、その下には凹線が一条刻まれている。脚部は復元で直径4.8㍎、長方形の透かし孔が底部直下に切り込まれている。透かし孔の位置は、脚部断面をほぼ三等分する間隔に復元できる。器壁は脚部がとりつく底面は約5㍍ほどであるが、体部中位から口縁部にかけては3～3.5㍍とほぼ均等となる。内面の調整は回転利用の横ナデ調整仕上げである。外面の調整は凹線付近から底部にかけて左回転利用のヘラ削りがみられる。外面には一部で自然釉がかかり、櫛描波状文が隠れている。色調は青灰色でやや暗い。



第1図 有明町・一野遺跡表面採集の須恵器無蓋高坏片（S = 1 / 3）

## 2. 考古学的特徴 (第2図)

一野遺跡で発掘およびこれまで表面採集されている須恵器高坏との比較を中心に、紹介資料の考古学的特徴を整理しておきたい。ここでは小田富士雄氏の北部九州を中心にした須恵器の編年観(註5)を参考にしておきたい。

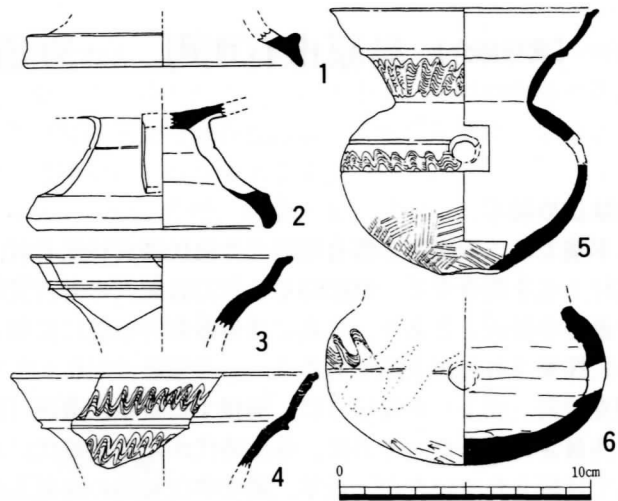
一野遺跡でこれまでに報告・紹介(註4・6)された須恵器高坏には第2図1・2がある。層位出土品であるが、形態的な特徴はI B期にみられる特徴に類似する。

3の甕口縁部片も同様にI B期に属する資料である。第2図4・5

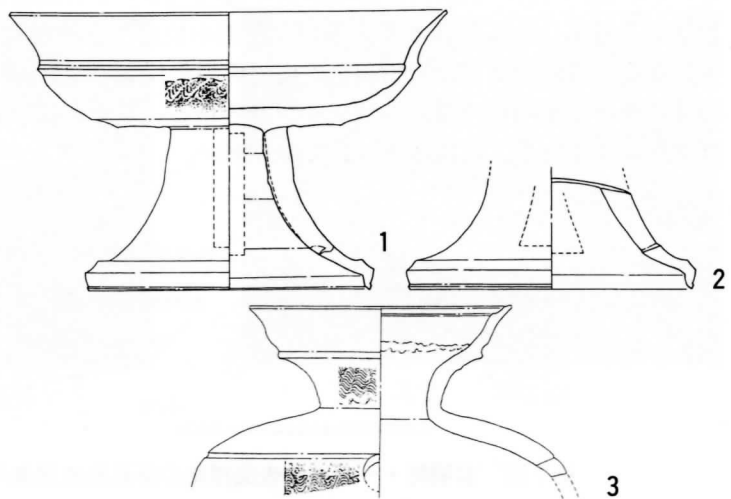
は堅穴系横口式石室を主体部とする3号墳周溝出土の甕であり、II期の特徴を有する。6の甕体部片はIII期であろう。本稿紹介の無蓋高坏はこれまでの調査で出土していない特徴を持つため、新資料の紹介となる。

第1図の無蓋高坏に類似する形態のものは、大村湾沿岸の前島古墳群(註7)6号墳から出土している(第3図1・2)。箱式石棺を主体部にした径約5匁の円墳で、無蓋高坏は墳丘裾からの出土品である。復元口縁部径17.2匁、坏部高4.6匁、脚部高さ12.4匁。坏部と体部との境にある稜線や脚部端部の稜線がしっかりしている。小田編年I B期に属する。前島古墳群7号墳は堅穴系横口式石室を主体部にもち、I B期に属する甕片(第3図3)を墳丘裾から出土している。

さて、一野遺跡で表面採集された第1図の無蓋高坏はいずれの時期に属するのでしょうか? 前島出土品に比べ一野遺跡出土品(第1図・第2図2)は丸みをもっていることが明らかである。また、前島出土品よりも口径が小さく、深みがあることも見て取れる。このように若干の相違はみられるが、形式的には大差ないものと考えられる。そのため、本稿で紹介している無蓋高坏は小田編年I B期に属するものと考えられる。



第2図 一野古墳群出土須恵器 (S=1/3)



第3図 前島古墳群出土須恵器 (S=1/3)

## おわりに

本稿では一野遺跡で過去に表面採集された無蓋高坏について紹介し、その考古学的な特徴と相対的年代を整理してきた。紹介した資料はこれまで一野遺跡では未発見のものであり、島原半島内でも古式の須恵器として貴重な資料となろう。また、一野遺跡では4世紀後半代と考えられる5号墳の築造に始まり、I期に属する須恵器や堅穴系横口式石室などの5世紀代の古墳も築造されており、II・III期に属する須恵器もみられ、7世紀代まで連続と古墳が築造されている。それを補強する材料になったかと思われる。一野古墳群の築造主体については、南に位置する景華園遺跡も候補地の一つであろう。過去の調査(註8)では須恵器を模倣した土師器坏が出土しており、居住域としての可能性も否定できない。

また、採集品や出土品の中には埴輪片や石人などは見られず、埴輪装飾はそれほど華美ではなかったことがこれまでの調査でわかってきた。この点は島原半島の他の地域でも確認されていることで、半島では埴輪をもつ古墳はみられず、埴輪を持たない墳墓圏に属したようである。その嫡矢となったのは、一野遺跡5号墳もしくは吾妻町守山大塚古墳のいずれかであろう。

## 【註】

- 註1 古田正隆ほか 1960「一野遺跡調査概報」長崎県島原土木事務所  
註2 福岡大学人文学部考古学研究室 2004『長崎県・景華園遺跡の研究ほか』  
福岡大学考古学研究室研究調査報告 第3冊  
註3 浦田和彦 1992『一野遺跡』有明町文化財調査報告書 第11集 有明町教育委員会  
渡辺康行 1999「一野式・弘法原式の設定めぐって」『西海考古』創刊号 西海考古同人会  
註4 宇土靖之・竹中哲朗 2001『一野遺跡Ⅱ』有明町文化財調査報告書 第14集 有明町教育委員会  
長崎県教育委員会 1986「一野遺跡」『長崎県埋蔵文化財集報X』  
長崎県文化財調査報告書 第86集  
註5 小田富士雄 1979「須恵器の編年」『九州考古学研究古墳時代編』学生社  
舟山良一 1998「九州」『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣出版  
註6 竹中哲朗 2003「有明町・一野古墳群出土土器」『西海考古』第5号 西海考古同人会  
註7 藤田和裕 1991『前島古墳群』時津町埋蔵文化財調査報告書 第1集 時津町教育委員会  
福田一志 1994『前島古墳群Ⅱ』時津町埋蔵文化財調査報告書 第2集 時津町教育委員会  
註8 長崎県教育委員会 2000「景華園遺跡」『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ』長崎県文化財調査報告書 第156集

## 【図版出典】

- 第1図 筆者実測・拓本・製図  
第2図 1～6 註4 有明町教育委員会2001より  
第3図 1～3 註7 福田1994より